

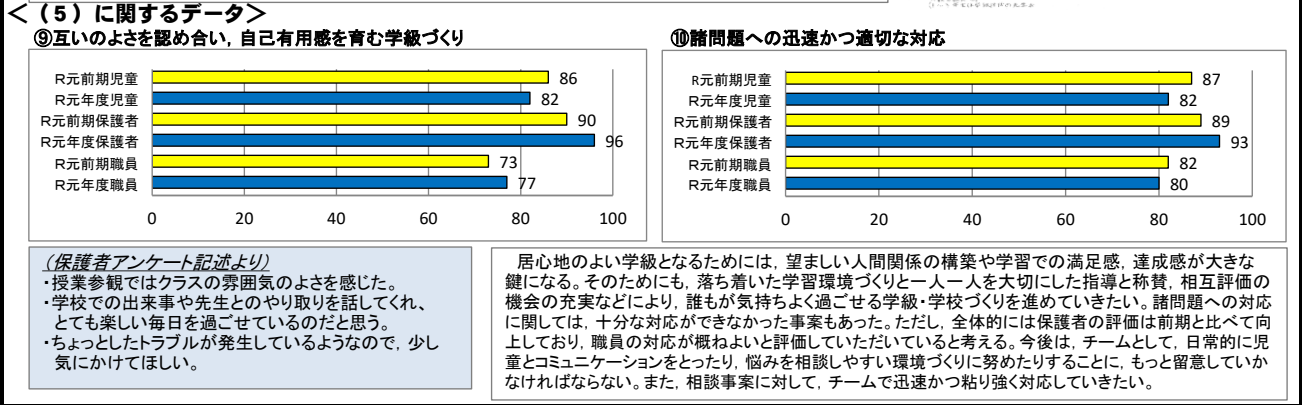
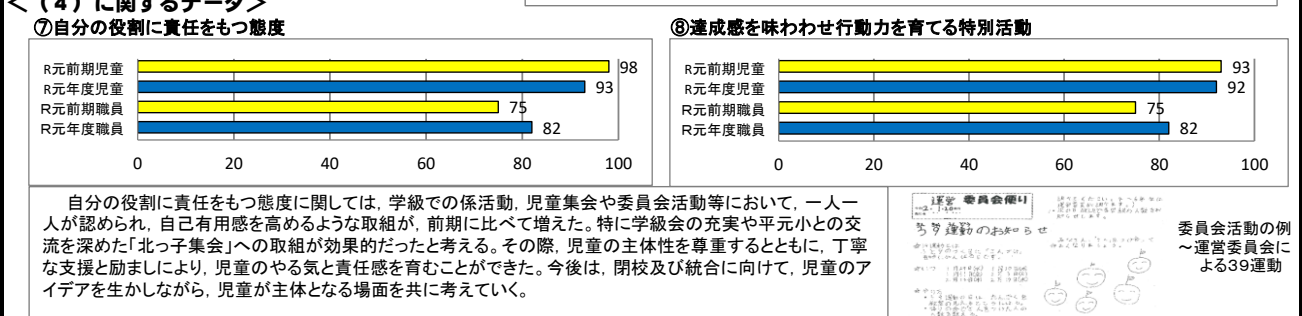
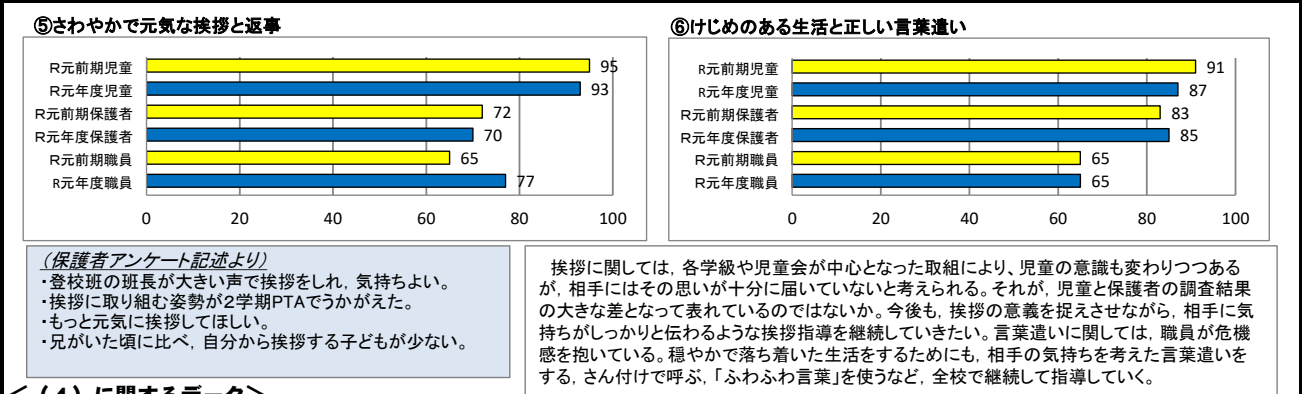
2 豊かな心と社会性の育成 <やさしく>

具体的な内容	自己評価A	関係者評価	関係者評価委員(学校評議員)のコメント	
思いやりの心をもち、互いのよさを認め合い、高め合いながら、規律ある態度で、協力して楽しい学校生活を送っている。	前期	良好	挨拶や言葉遣いは低い評価だが、工夫した取組がなされており、よい方向にある。継続して取り組むことで、今後の向上が期待できる。今後も保護者と連携しながら、丁寧に指導してほしい。	
	年度			
評価指標	実践課題		主な取組	自己評価B
				前期 年度
(3)基本的な生活習慣	⑤さわやかで元気な挨拶と返事 ⑥けじめのある生活と正しい言葉遣い		・あいさつ運動・月目標 ・継続的な生活指導・児童活動における生活習慣の啓蒙・休業中のおしり	3 3
(4)集団生活・集団活動	⑦自分の役割に責任をもつ態度の育成 ⑧達成感を味わわせ行動力を育てる特別活動		・当番活動・係活動・児童会活動・縦割り班活動・異学年交流・町内児童会 ・運動会、学習発表会等の行事と児童集会等の特別活動・表現の場の設定	3 3
(5)思いやりの心と温かい人間関係	⑨互いのよさを認め合い、自己有用感を育む学級づくり ⑩諸問題への迅速かつ適切な対応		・友達のをさを認め合う場とめあての設定・学年だよりでの紹介・全校の場での紹介 ・アンケートの実施・児童を語る会・ふれあいのタイム、教育相談	3 4

学校の改善策

【前期(一年度)】
 ・挨拶について、児童会や各学級でどんな挨拶が望ましいのか話し合い、そのうえで明るい挨拶にするための手立てを自主的に考えるよう働きかける。
 ・前期は各委員会とも工夫した活動が見られた。新しい活動や前からの活動に手を加えた活動があった(図書委員会の「ビブリオバトル」、健康委員会の「美食デー」、運営委員会の「さんデー」運動等)。後期も児童のアイデアを生かした活動を促す。
 ・代表委員会の機能を見直し、共通のテーマで話し合うなど充実した児童会活動を目指す。
 ・問題行動への早期対応や教育相談を適切に行い、全職員で対応に当たる。

【年度(一次年度)】
 ・今年度は、挨拶について学級ごとにスローガンや取組を考え、実践した。それにより、児童自身の意識が高まり、少しずつよくなってきた。来年度も自主的な取組を促していく。
 ・言葉遣いについては、個人によって受け取り方が異なることも考えられるが、児童がどう考えてその言葉を発したのか、対話をしながら指導するべきことは指導し、受け止めるべきところは受け止めるという考え方で支援していく。
 ・委員会や学級活動では、児童の主体的な考えを引き出し、大人はそれをサポートするという考え方で進める。児童に自信をもたせることで、意欲的な態度の育成やいじめ防止につなげる。



自己評価A及び外部評価の評価区分	自己評価Bの評価基準
○ 極めて良好	5 実現状況は極めてよく意識も高い/数値目標に対して91%以上達成・前年度比108%以上
○ 良好	4 実現状況は良好で意欲もある/数値目標に対して80~90%達成・前年度比103~107%
○ おおむね良好	3 実現状況はおおむね良好/数値目標に対して60~79%達成・前年度比98~102%
○ やや不十分	2 実現状況はやや不十分で取組が不安定/数値目標に対して50~59%達成・前年度比93~97%
○ 努力を要する	1 実現状況は不十分で努力を要する/数値目標に対して49%以下の達成・前年度比92%以下